



明けましておめでとうございます。

公益社団法人徳島県宅地建物取引業協会の皆様におかれましては、昨年、記念すべき創立50周年を迎えられ、さらなる飛躍へのスタートとなる新年を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、皆様には、日頃より、不動産業界の発展のため多大なご尽力をいただくとともに、本県の住宅・建築行政はもとより、県政各般にわたり格別のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

「東京オリンピック・パラリンピック」まであと3年を切り、スポーツ・文化の機運が一層高まった昨年は、オリンピック開会式予定日の7月24日、当日の混雑緩和と働き方改革のため政府が定めた「テレワーク・デイ」を初めて迎え、テレワーク先進県・徳島として、100名を超える職員が実践しました。

また、この日は「オリ・パラ」エンブレムへの「ジャパンプルー・藍色」採用を機に制定された、初の「とくしま藍の日」。フォーラム開催や県庁舎のLEDブルー・ライトアップなど、県を挙げて藍の魅力を発信しました。

さらに、明治開闢以来となる国の統治機構改編への第一歩となる「消費者行政新未来創造オフィス」も、この日、徳島に開設され、「トリコロール」3つの意義を織りなす「7月24日」は、県内外の歴史に深く刻まれることとなりました。

一方、防災・減災対策では、熊本地震をはじめとする最新の知見を踏まえた「中央構造線・活断層地震の被害想定」を策定し、7月に公表。加えて、地震の被害軽減に大きな効果が期待できる「建物の耐震化」を一層加速させるため、全国に先駆けて制定した「震災に強い社会づくり条例」を改正し、「耐震改修の促進に必要な措置の実施」や「耐震改修業務を担う方の育成・確保」といった明確

な方向性を位置づけました。

さて、今年の干支は「戊戌（つちのえ・いぬ）」。「戊」は「茂」に通じ、十干の5番目、折り返し点で、あらゆるものが茂りを迎えていくこと、「戌」の「一」は「陽気」の象徴で、日当たりを良くし、根固めの必要性を示しています。そこで「戊戌」は、「陰陽複雑さを増していく中で、陽気を見定め果敢し、維新・一新に繋げるべき年」とされます。

今年は、国を挙げてのインバウンド対策に呼応する「徳島阿波おどり空港」の新ターミナルがいよいよオープン。「第九」アジア初演100周年記念の演奏会では、国内外から大勢の方が集い、まさに「歓喜」の歌声が響き渡ります。

また、アジア初、第30回記念「ウェイクボード世界選手権」が池田湖にて開催、これで「ワールドマスターズゲームズ2021関西」まで4年連続、徳島が世界大会の開催地、またはキャンプ地となります。世界中から注目が集まる絶好の機会、徳島の魅力に一層磨きをかけ、「お接待」の心で、県を挙げておもてなしをして参ります。

そして、こうした取組みの礎ともなる「県土強靱化」につきましては、「建物の耐震化」対策の抜本的な強化を図るべく、新たな支援制度の設計に取り組んで参ります。

今後とも、県においては、県民の皆様の「安全・安心な暮らし」の実現と、「一歩先の未来」の創造に向けて、全力を傾注して参る所存であります。宅地建物取引業協会の皆様におかれましては、なお一層のご理解、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

結びに、本年が貴協会の皆様にとって実り多き年となりますことを、心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。